

令和7年度第1回広島市がん検診精度管理連絡会議 会議要旨

1 日 時 令和7年11月4日（火） 19:00～20:30

2 開催方法 オンライン開催

3 出席委員 名簿のとおり（委員8名、事務局5名）

4 会議概要

(1) 開会挨拶

(2) 新任委員紹介

(3) 議題等（○＝委員、●＝事務局）

ア 議題1 「広島市におけるがん検診の実施状況について」

事務局より資料1を説明

質問なし。

イ 議事2 「広島市のがん検診の精度管理状況」

事務局より資料2、資料3を説明

○（委員）

全体に受診率が低下しているとのことだが、乳がん検診について、コロナ以前の40代の受診率は7割ほどあった。しかし、今はかなり減少し56%である。以前受けた方が50代となった結果、50代は60%となっている。それ以上の方は閉経していたり、年をとって検診がいらないと思っている方が多い印象がある。全国のがんの統計を見ると乳がんの罹患数が一番多いのは60～70歳代である。もう少し60歳代以上の人アピールする必要があると思う。また、40歳代でこれから乳がん検診を受ける人にアピール出来る何かがあつたらいいなと感じた。

次に、集団検診に比べて個別検診の方が精検受診率が低く未把握率が高いという話があった。個別の方が精検受診率が高くなりそうが、どういうことが推測されるか。例えば広島市の受診券は届いているが、受診券を使わずに人間ドックを受診している人がいるため、そういう方が取りこぼされている可能性がないか知りたい。

最後に、精密検査結果連絡票について、報告する義務があることや統計をとて国に報告していることを強調したほうがいいと思う。オール広島で広島の成績を上げようというポジティブなメッセージを入れることで、精密検査をする先生も重要な書類だから返さないといけないと感じてもらえたらしい。診療する側は、単に精密検査を受ければいい、紹介すればいい、がんを発見すればいいと思ってしまいがちである。なので精密検査結果連絡票は大事だということを強調したり、ポジティブなやる気が出るようなメッセージがあればいいと思う。

● (事務局)

受診率について、全てのがん検診が減少または横ばい傾向である。乳がんについても受診率が低いこともあるため、40歳以上の方に対して、もっとPRしていく必要があるなと感じた。

精検受診率、未把握率について、集団検診を委託している原爆障害対策協議会は精検実施医療機関から返ってきたものについて、市へほとんど報告をしていただいている状況のため、精検受診率の高さや未把握率の低さにつながっていると思われる。しかし個別検診は、返送率の高いところと低いところの差が激しく、0%や30%の返送率となっている医療機関もあり、未受診率や未把握率が高くなっている。そのため精密検査結果通知書を出すことで、未受診率・未把握率が減少していってほしいと考えている。

精密検査結果連絡票について、報告が重要であることや国への報告につながっていることが医療機関に伝わっていないと感じている。オール広島で取り組んでいくというポジティブなメッセージを伝えていくことが、重要であると感じた。

● (事務局)

補足で40歳代の方については、乳がんの無料クーポン券を送付しており、その後の乳がん検診を継続して受けていただく足掛かりとして毎年取り組んでいる。40歳の方に対しても検診が大事なのだということを合わせてしっかり普及啓発していきたい。

○ (委員)

60～70歳代の受診率を高めるためには、閉経や年齢を理由に興味を失うことがないようにテレビなど住民にアピールするような手を考えないといけない。

また精密検査結果連絡票の重要性を知ってもらうために、精検結果をまとめたデータを広島市から精検実施医療機関に送付するはどうか。精密検査結果連絡票の提出が0%の機関でも、結果をまとめたものを送付すれば、精密検査結果連絡票を送付できていないことに気付くのではないか。

● (事務局)

確かに結果を医療機関に返すことで国への報告につながっていることを知つてもらう機会になると思う。この度、大腸がん検診の調査をするにあたり、各医療機関に調査を送るとともに、各医療機関の精密検査の受診率や未把握率、未受診率などの結果をお返しすることができた。今後そういった取り組みが出来るかどうか、検討していきたい。

○ (委員)

そもそも精密検査結果連絡票(3枚複写)が紹介の時点で一緒に届いていないことが多い。そのため、まずはこの運用をしっかりと検診実施医療機関に周知することが大事だと思う。「全ての要精検者に対して説明の上渡している」ということは、患者が精検実施医療機関を受診しても、精密検査結果連絡票を出さなかつたら意味がない。そういうところも含めて運用をしっかりと周知したほうがいいと思う。

また精検受診率について、広島県のデータを見ると山間部や島しょ部で受診率が高いが、これは保健師などが個別に受診勧奨の電話をしているためと聞いた。広島市は人口が多いので同じ取組は難しいと思うが、そういった取組も必要だと感じた。

○ (委員)

確かに、中山間地域や島しょ部は精検受診率が高い。そういった地域は、隣人や町内会長が受診を呼び掛けている。中区などは地域のつながりが低いため、受診に繋がっていないとも考えられる。そのため、中区などの中心部の受診率を上げようと思ったら、周知方法を考えないといけない。

また、自院で検診と精検をしている医療機関が、精密検査結果連絡票を出していない可能性もあるため、データを取るようにしていった方が良い。

● (事務局)

精密検査結果連絡票の提出について、8月に市医師会を通じて通知をしているが、十分に伝わっていないと感じている。医療機関によっては精密検査結果連絡票を使わず、独自様式を使用し、返ってきた結果を精密検査結果連絡票に書き直したりしているところもある。各医療機関によって様々ではあるが、改めて運用を周知していく必要があると感じた。

また山間部や島しょ部の受診率について、地域のコミュニティの力や、電話等の受診勧奨が受診率の向上につながっていると思う。広島市で同じ取組を行うことは難しいが、受診勧奨通知の送付など、引き続き様々な受診を促す方法に取り組んでいく必要があると感じた。平賀委員はいかがか。

○ (委員)

広島市医師会の代表として、医師会自体が個別の医療機関に関して圧力をかけるというのは、団体の性格上あまり好ましくないと考えている。広島市が個別の医療機関に対して、繰り返し周知を行う方が良い。個人的な発言としては、書類を送っても見てもらえないなれば伝わらないというところが現実だと思う。

● (事務局)

承知した。益田委員いかがか。

○ (委員)

調査結果で、精検実施医療機関から精密検査結果連絡票を受け取った検診実施医療機関の割合が3割というところがあるが、その病院では精密検査結果連絡票を送っているにも関わらず、返ってきていないという結果になっているのか。

● (事務局)

精密検査結果連絡票をそもそも使っていなかったり、精検実施医療機関から結果が返ってきて医療機関内で整理出来ていないために、このような結果になっていると聞いている。

○ (委員)

承知した。広島大学病院でも精密検査結果連絡票を受け取り、手術後に返そうと思っていても、忘れてしまうことがある。そういうヒューマンエラーをカバーしてもらえる方策があればいいと思うが難しいか。

● (事務局)

医療機関の体制によってはヒューマンエラーも起こりうるため、精密検査結果通知書を個別に医療機関に送付し、出来る限り簡単に返送できるよう工夫し、未把握率を下げていきたいと考えている。

○ (委員)

承知した。改善を期待している。

● (事務局)

改めて取組結果を報告させていただく。岡島委員はいかがか。

○ (委員)

検診実施医療機関から紹介を受けた時に、精密検査結果連絡票ではない紹介状は結構ある。病院独自の様式や、結果が返ってきてても自院だけで把握しておけばいいと思っている医療機関が多いことが原因の一つだと思う。検診実施医療機関で自院の紹介状と精密検査結果連絡票を一緒に入れてもらえば良いと思う。精検実施医療機関としては手間が増えるが、致し方ない。さらに言えば独自様式はやめてもらい、精密検査結果連絡票のみを使用するのはどうか。行政の力を使ってインセンティブを考えるのも良い。

● (事務局)

精密検査結果連絡票を使っていない医療機関は、返送率が低いということが今回の調査で分かったため、運用方法については十分に見直していく必要があると感じた。古川委員はいかがか。

○ (委員)

検診実施医療機関からの紹介状は、精密検査結果連絡票でないことが大半である。なぜかを考えると、検診実施医療機関は電子カルテを使っており、精密検査結果連絡票を使うと、二度手間になるためである。一方、病院独自の紹介状であればオンライン上でやりとり出来るため、精密検査結果連絡票の利用につながらないのだろうと考えている。なぜ精密検査結果連絡票が必要なのかということが送られてきただけでは分からぬため、これが行政の基礎データになっていることや統計処理をしていることなどを伝えていく必要があると思う。そのために、精密検査結果連絡票をまとめたデータのようなものを広島医学雑誌などに載せるのはどうか。精密検査結果連絡票の結果がどのようなデータに繋がっているかを検診される先生方に理解してもらえると良いと思う。ただ、電子化がどんどん進んでいく段階において、精密検査結果連絡票を続けることが良いのかどうかというところから、もう一度考えていただきたい。

● (事務局)

各医療機関で電子化が進んでおり、精密検査結果連絡票は先生方の手間になることを十分にイメージ出来ていなかった。今後 DX 化も進んでいく中で、紙媒体でのやりとりは課題であると感じた。また周知方法について、医学雑誌と発言いただいたが、他にも医療機関への周知方法で良いものがもしあれば、引き続き教えていただきたい。

以上、本日は活発な御議論をいただき感謝する。

(3) 閉会